

鳥栖市都市計画マスタープラン (策定中)

- 都市計画マスタープランの概要

- 全体構想 (案)

将来像・基本方針

将来の目標人口

将来都市構造

分野別方針

都市計画マスタープランの概要

1. 都市計画マスタープランとは

- ・概ね20年後を見据えて、都市（まち）の将来像や実現に向けた方向性を明らかにするものです。
- ・住民の意見を反映させながら、土地利用、市街地整備、交通体系、自然環境、都市施設、防災・防犯といった、まちづくりに関する基本的な方針を定めます。
- ・今後、都市計画に関する各種事業や事業計画を進めていくうえで指針となります。
- ・長期的な視点に立って“効果的・効率的”に施策・事業を展開していくため、都市計画マスタープランにおいて**将来像や基本方針を明示し、その実現に向けて計画的に実施していくことが重要**です。

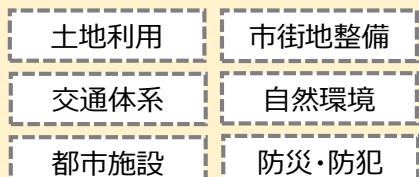
2. 都市計画マスタープランの構成

鳥栖市都市計画マスタープラン

1. 鳥栖市の概況、主要課題の整理

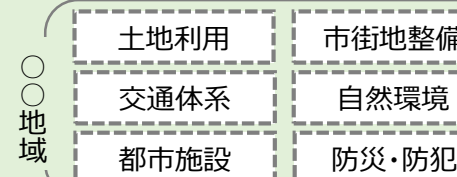
2. 全体構想

- 鳥栖市全体のまちの将来像
- 各分野に関するまちづくりの方針



3. 地区別構想

- 地区ごとのまちの将来像
- 地区ごとのまちづくりの方針



4. 実現に向けた取り組み

- 今後の推進体制、役割分担 など

3. 策定スケジュール

	平成29年度		平成30年度			平成31年・令和元年度		
	6~11月	12~3月	4~7月	8~11月	12~3月	4~7月	8~11月	12~3月
都市の現況課題整理	市民アンケート実施	課題整理						
全体構想の作成			全体構想素案作成	全体構想案作成				
地区別構想の作成				地区別構想素案作成	地区別構想案作成			
地区ごとのワークショップ				第1回	第2回			
都市マスの策定						実現に向けた取り組み案作成		
都市計画審議会	7/31 ○	2/15 ○	5/30 ○	9/28 ○	1/30 ○	7/30 ○	11月 ○	2月 ○

鳥栖市都市計画マスタープラン 全体構想（案）

鳥栖市の特性

- 通勤、通学、買い物など生活の便利さとともに、水と緑に恵まれた豊かな自然環境に囲まれ、暮らしやすい環境が整っている。
- 九州陸路交通の要衝として優れた立地特性を有し、九州有数の内陸工業都市、物流拠点都市として成長を続けている。
- 鳥栖プレミアム・アウトレットやJリーグサガン鳥栖のホームスタジアムである駅前不動産スタジアムなど九州を代表する広域的な集客施設が立地している。

都市づくりの問題点・課題

	問題点・課題	取り組みの方向性
人口	①人口減少・超高齢社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少地域への対応 ○持続可能な都市構造への転換
土地利用	②良好な住環境の形成	<ul style="list-style-type: none"> ○空き家等及び跡地の活用促進 ○地域特性に応じた住環境向上、集落機能の維持
	③商業機能の適正配置	<ul style="list-style-type: none"> ○郊外への大規模商業施設の立地抑制、中心商業地の活性化 ○地域住民の生活利便性向上
	④新たな産業の受け皿確保	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな産業団地の整備、企業誘致の推進
市街地整備	⑤市街地の拠点性向上	<ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地の賑わい創出 ○九州新幹線の広域性を活かす機能誘導
交通体系	⑥円滑な道路ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地内道路の交通混雑緩和 ○計画的な都市計画道路の整備
	⑦公共交通ネットワークの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○市民生活に必要な移動手段の確保 ○路線バスの運行形態の効率化
自然環境	⑧自然環境の保全と地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○自然環境の適切な保全、地域資源の活用 ○自然、レクリエーション機能の充実
都市施設	⑨安全で快適な生活道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○生活道路の整備、歩行者空間の形成
	⑩公園・緑地の機能充実	<ul style="list-style-type: none"> ○公園の機能向上、都市内緑化の推進
防災・防犯	⑪災害に強い都市基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○避難地・避難路等の確保、防災拠点施設の整備 ○危険箇所の災害対策、住宅地の適正な誘導
	⑫防犯対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○犯罪の発生を抑制する都市空間の整備

将来像・基本方針

【将来像】鳥栖市はどんなまちを目指すのか？

- 抜群の交通利便性を誇る「九州のクロスポイント」「産業都市」としての鳥栖市のポテンシャル（強み）を更に高めていく。
- 現在の市街地のまとまりや蓄積された都市基盤を活かし、周辺の集落や田園、里山などの自然空間とも調和した市街地を形成する。
- 鳥栖市が将来にわたって活力を維持していくため、まちを支える市民一人ひとりが輝く、快適で魅力的な住みやすいまちを目指す。

将来都市像

「都市と自然が調和し、人が輝く快適なまち」

【基本方針】将来像を実現するため目指すべき方向性

方針1 便利で快適なまち

- 計画的な土地利用を推進し、コンパクトで良好な都市環境を形成する
- 道路・公共交通ネットワークを強化し、市内外の移動を円滑化する
- 生活基盤整備や空き家等の利活用により、快適な居住環境を整える

<主な取組例>

- 地域特性に応じた住宅地の整備と居住環境の形成
- 日常生活圏における生活サービスの維持・確保
- 計画的な都市計画道路の整備
- 公共交通の効率的な運行
- 計画的な都市施設の整備・適正管理
- 生活道路の幅員確保や歩道整備
- 空き家等及び跡地の活用促進

方針2 活力と賑わいのあるまち

- 鳥栖駅・新鳥栖駅を中心とした賑わい拠点を形成する
- 新たな産業団地の整備と企業誘致により、働く場を確保する
- 市街地や観光資源等との回遊性を高め、人の交流を活発化する

<主な取組例>

- 中心市街地の賑わい創出
- 新鳥栖駅周辺の拠点性を活かす土地利用
- 鳥栖駅・新鳥栖駅におけるゲート機能（案内、二次交通、飲食物販など）の強化
- 新たな産業団地の確保による企業誘致の推進、企業支援
- 観光資源（集客施設等）との周遊、市街地への誘導

方針3 自然と共生するまち

- 農地や山林などの自然環境を適切に保全し、自然と調和した生活や生産機能を維持する
- 自然・歴史・文化など地域資源の魅力を高め、広域的な観光交流を促進する
- 豊かな緑の空間と水辺環境をつなぐ、水と緑のネットワークを形成する

<主な取組例>

- 開発許可制度の運用による観光振興・集落の維持
- 河内防災ダム周辺等のレクリエーション拠点の機能充実
- 史跡等の整備・保全
- 魅力的で安全な公園・緑地の整備
- 豊かで清らかな水辺環境の整備

方針4 人にやさしいまち

- 市民の生活と財産を守る災害に強い都市基盤を整備する
- 安全で安心して暮らせる事故や犯罪のない環境を整える
- 文化活動やスポーツに親しむ環境を整える

<主な取組例>

- 避難地や避難路の確保
- 浸水被害のおそれのある箇所のある河川・排水路整備
- 防災拠点施設の整備
- 上下水道施設の更新・耐震化
- ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進
- 通学路の交通安全対策
- 防犯対策の充実
- 文化・スポーツ施設の更新・機能充実

鳥栖市都市計画マスタープラン 全体構想 (案)

将来都市構造

■ 将来都市構造とは

都市構造とは	都市の特徴や骨格を概念的に表すもの
拠点とは	都市の中で諸機能が集積し中心的な役割を果たす地区を示すもの
軸とは	都市の主要な動線を示すもの
ゾーンとは	主な土地利用を示すもの

■ 拠点

拠点名	内容
にぎわい中心拠点	日常生活に密着した商業・業務機能とともに、スポーツや交流などの機能を有する市の中心拠点
広域交流拠点	観光やビジネスなどの広域的な交流を促進する拠点
観光交流拠点	広域的な集客を活かした交流拠点
自然・レクリエーション拠点	豊かな自然を活かし、休息・余暇を楽しむ機能を有する拠点
工業・流通業務拠点	工業・流通業務機能が集積する拠点

■ 軸

軸名	内容
都心軸	にぎわい中心拠点と広域交流拠点を結び、市の中心部となる軸
都市内連携軸	市内の拠点や施設などを結び、交流や連携を図る軸
産業軸	工業・流通業務拠点と主要幹線道路を結ぶ軸
広域連携軸	他都市と広域的に結び、都市間の交流や連携を図る軸
環境軸 (水と緑のネットワーク)	河川や緑地などの良好な自然環境・景観が連続する、都市と自然を結ぶ軸

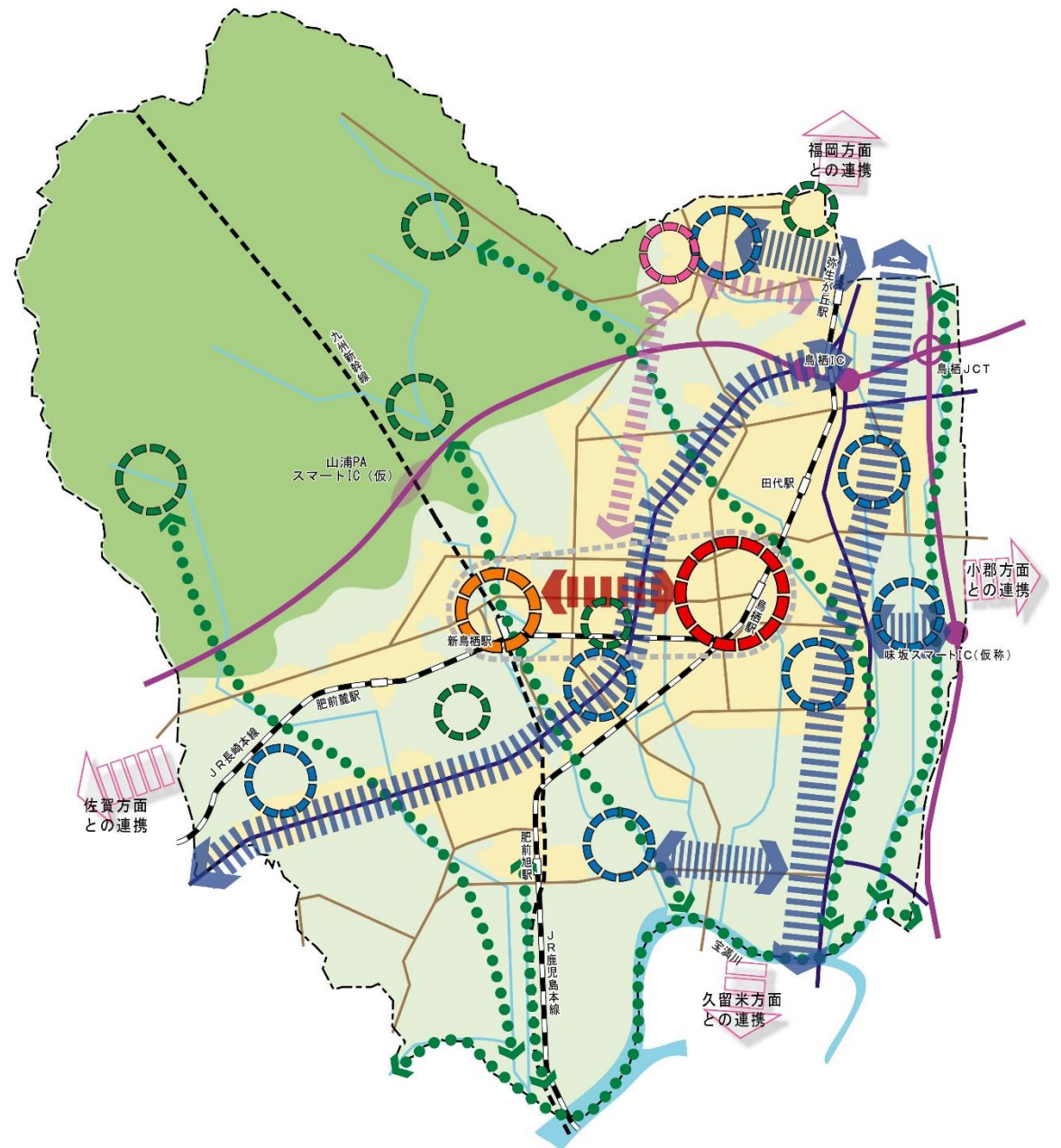
■ ゾーン

ゾーン名	内容
市街地ゾーン	主に市街化区域を対象とし、居住、商業・業務、工業など一定の人口・都市機能が適正に配置されたゾーン
森林ゾーン	主に市街化調整区域の山間部を対象とし、豊かな自然や歴史資源を保全・活用するゾーン
田園ゾーン	主に市街化調整区域の農村部を対象とし、豊かな田園環境を保全するとともに、集落の維持・活性化を図るゾーン

■ 将来都市構造 (案)

凡例

- 行政区境界
- 都心軸
- 市街地ゾーン
- にぎわい中心拠点
- 都市内連携軸
- 森林ゾーン
- 広域交流拠点
- 産業軸
- 田園ゾーン
- 広域連携軸
- 観光交流拠点
- 環境軸 (水と緑のネットワーク)
- 自然・レクリエーション拠点
- 工業・流通業務拠点
- 高速道路
- 一般国道
- 主要地方道、一般県道、市道
- 九州新幹線
- JR線



将来の目標人口

全国的に人口減少傾向にある中、本市の人口は増加が続いていますが、国立社会保障・人口問題研究所の推計（2018年推計）によると、2030年の76,221人をピークに、減少へ転じると予測されています。

「鳥栖市人口ビジョン」（2015年9月策定）では、人口動向や将来人口推計の分析結果を踏まえ、2060年に75,000人～77,000人を基礎とする人口目標を展望したうえで、2060年に75,000人を現実的な目標人口としています。

全国的に人口減少・超高齢社会への対応が課題となっており、本市においても将来的には人口が減少することが予想されることから、この目標人口を達成するためには、人口増加が続く今後約10年のなかで、持続可能な都市構造への転換を模索していく必要があります。

このようなことから、本計画では、日常生活圏で暮らすコンパクトな都市づくりを進め、本市の豊かな自然環境と調和した機能的で魅力ある都市空間の形成を目指すとともに、それぞれの地域特性に配慮した職住近接型のゆとりある生活の実現を目指します。

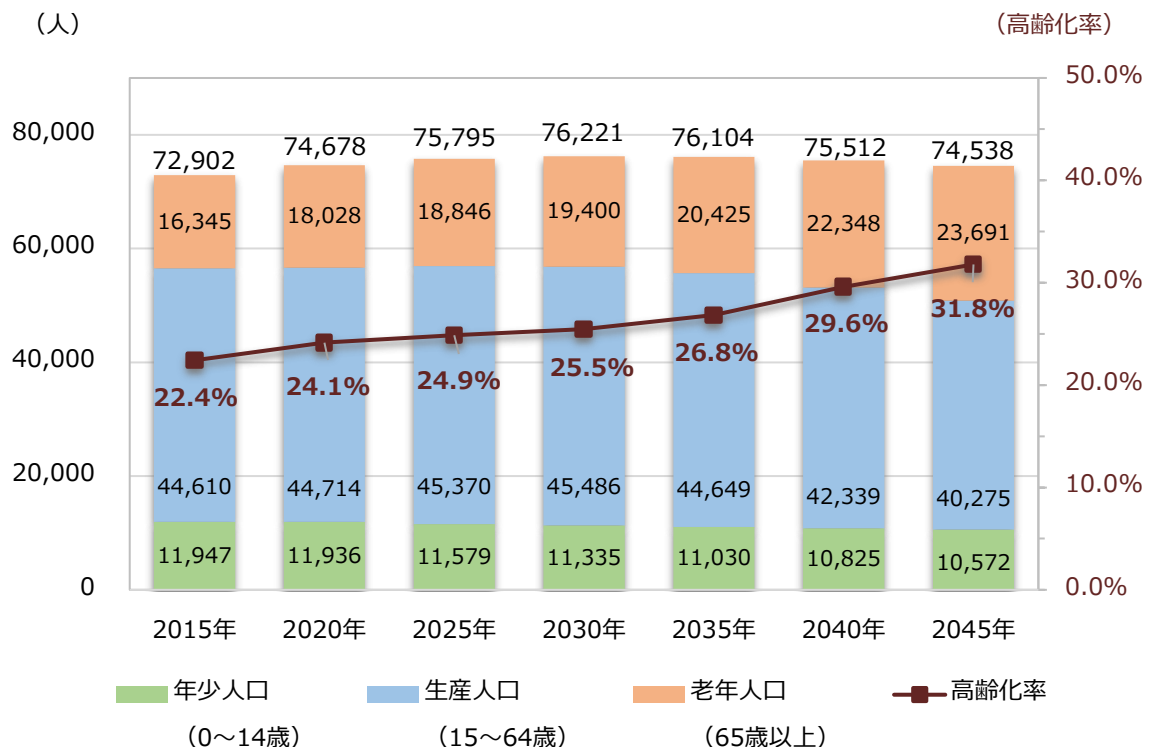


図 将来人口推計と高齢化率の推移

出典：国立社会保障・人口問題研究所 「日本の地域別将来推計人口」

